

児童・生徒の現状・課題

- ・対話や協働から学ぶ力が弱い。
- ・粘り強さや次回に生かそうとする意欲が低く、諦めやすい。
- ・自己理解はしつつも、行動にはつながらない。
- ・自発的に行動したり発言したりする児童が少ない。

学び続ける力を育むための重点目標

- 児童が活動する中で安心して挑戦したり、自分から発信したりすることができる。(見通す場面・自己理解挑戦・他者受容)
- 他者との関わりの中で、学びを得ることができる。(他者受容・協調性)

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	85.3	90.0	90.0
②やってみたいことや挑戦してみたいことがある。	75.2	80.0	90.0

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	73.3	90.0	95.0
②児童の興味・関心を高める工夫をしたり、児童が取り組んだことに対して、受容・称賛・励ましなどの価値付けを行ったりしている。	94.0	95.0	95.0

具体的な手だて①

毎時間、自らの学習への取り組み方や友達との関わりの中で深まったことを振り返り、学習の視点に沿って修正しながら取り組めるようにする。(見直す、振り返る)

具体的な手だて②

主な学習活動をホワイトボードに掲示し、45分間の見通しをもてるようにし、安心して学習に取り組めるようにする。(見通す)

具体的な手だて③

自己の課題や学習進度に合わせて児童が学習方法を選択する機会を取り入れていく。(選択する)

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・校内研究を中心に本校としての学習スタイルを共有していく。
- ・OJT等で各教員の実践を共有していく。

総括(5月)

全体的に学力は高いが、それがゆえに、失敗を恐れ、挑戦したり粘り強く取り組んだりする力が弱い。授業や委員会等の特別活動においても、決まったことに対しては一生涯取り組む児童が多いが、自発的に行動したり発言したりする児童が少ないという声が多く多くの教員から上がった。そこで、学習の中で振り返りや、児童が選択できる場面を設定し、児童が自信をもち主体的に行動・発言する力を養っていきたい。

総括(1月) 学習に対する意欲や主体性について、児童・教員ともに肯定的回答の割合が大きく向上した。児童調査では、「自分から進んで計画を立てて学習している」「やってみたいことや挑戦してみたいことがある」の項目から、自分で考えて学習に取り組もうとする姿勢が定着してきていることがうかがえる。また、教員調査においても、学習課題や学習方法を選択できる場面の設定や、児童の取組を認め励ます指導について高い数値が維持されており、授業改善の取組が日常化してきていると考えられる。